

# 高等学校「現代社会」における公民的資質の向上

## －ニュース発表を活用した授業を通して－

教職実践専攻・教育実践開発コース  
学籍番号 19GP504 氏名 佐藤 皓一

### 1 はじめに

平成30年に告示された『高等学校学習指導要領解説公民編』では、公民的資質について次のように説明している。「現代の社会について探究しようとする意欲や態度、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として、社会についての広く深い理解力と健全な批判力とによって政治的教養を高めるとともに物心両面にわたる豊かな社会生活を築こうとする自主的な精神、真理と平和を希求する人間としての在り方生き方についての自覚、個人の尊厳を重んじ各人の個性を尊重しつつ自己の人格の完成に向かおうとする実践的意欲」<sup>i)</sup>が公民としての資質と説明されている。この資質が求められるようになった理由は、日本国民としての自覚や風土、歴史、地域社会に対する誇りと愛情をもちながら、日本がグローバル化していく中で、他国や他国の文化を尊重することの大切さの自覚と、互いに主権を尊重しながら協力し合うことの大切さの自覚を養うことで、社会の有為な形成者として社会に求められる人間になるためである。そのため、教育現場では公民的資質を向上させていく必要があり、これから社会に出ていく高校生が、授業を通して、最近のニュースに触れることや、互いの意見を共有、交換し、良いところや悪いところを客観的に指摘し合うという手立てが必要だと考えられる。最近のニュースに触れることは、上記の通り、現代の社会について探究しようとする意欲や態度、社会的な見方・考え方を養うことで、社会との関わりを意識した課題解決的な学習になる。また、互いの意見を共有、交換することは、社会についての広く深い理解力と健全な批判力とによって政治的教養を高めることにつながる。

本研究では実習校である、A高校での実践で、「現代社会」で公民的資質の向上を図るためにはどのような授業を展開することが望ましいのかを検証していく。前期フィールド実習は新型コロナウイルス発生による自粛期間だったため、授業日数が休校などで少なくなり、時間が限られている中での研究だったことを、あらかじめお断りしておく。

なお、佐長健司・真子靖弘の「公民的資質を育成する社会科パフォーマンス評価の開発」<sup>ii)</sup>によると、公民的資質は、民主的な市民として必要とされる知識や能力、態度を総合的に有する状態を意味する。そのような公民的資質は、市民社会においてこそあらわになり、認めることができる」と述べている。

文部科学省による各教科の目標では、高校はもちろんそうだが、小・中学校の社会科でも公民的資質の基礎を養うとされている。今現在の学習指導要領では、「公民的資質」が重要視されている項目の一つであることが分かる。このことから、公民的資質の向上にはどのような方策があるのか、その具体策について公民分野の現代社会の授業から検討していく。

### 2 研究仮説

まずは仮説設定の経緯について述べていく。私の実習校であるA高校では、現代社会の授業の最初にニュース発表を行っている。ニュース発表とは、学級の中の生徒一人が新聞記事やネット報道などのニュースを選択し、それについての概要や自分の考えなどを述べる5分ほどの発表のことである。そのニュース発表を活用した授業を行うことにより、公民的資質が向上すると考えた。なぜなら、「はじめに」で述べた公民的資質の4つの要素をニュース発表が含んでいるからだ。また、公民的資質の向上のため、今年度の集中実習から従来のニュース発表を少し改変し、行った。それまでのニュース発表では発表者だけの空間になってしまい、発表していない生徒が空気になってしまっている場面が多かった。それでは、授業の時間を割いてやっている意味が無くなってしまう。そこで、発表していない生徒も参加し、幅広い分野に目を向けて欲しいと思い、ニュース発表の中から自分自身がキーワードだと思うことを挙げさせるようにした。このニュース発表を行い、ニュースとキーワードを活用した授業を展開することで、公民的資質の向上が見られるのではないかと考えた。全員参加型のニュース発表は、公民的資質の中の意欲や態度、自主的な精神、実践的意欲の部分に当てはまっている。また、他人の考えていたことや自分との違いを確かめることにより、他者理解の精神の育成にもつながる。そして、生徒から出てきたキーワードを活用し、授業の中に盛り込むことで、より公民的資質の向上が図られると考えた。これは、集中実習で行った、一票の格差について考える授業の際にニュース発表を生かすことができた手応えからもこのように感じる事ができた。右の図は集中実習時、ニュース発表を授業の中にうまく落とし込めた時の生徒の書いたものである。この授業では、一票の格差について個人で考える時間、周囲の生徒と意見交換する時間をとっており、自分がどのように感じるのか、何が問題なのかなど、ニュースを元にした内容理解や考察重視の授業であったため、このような図をかけたと考えた。

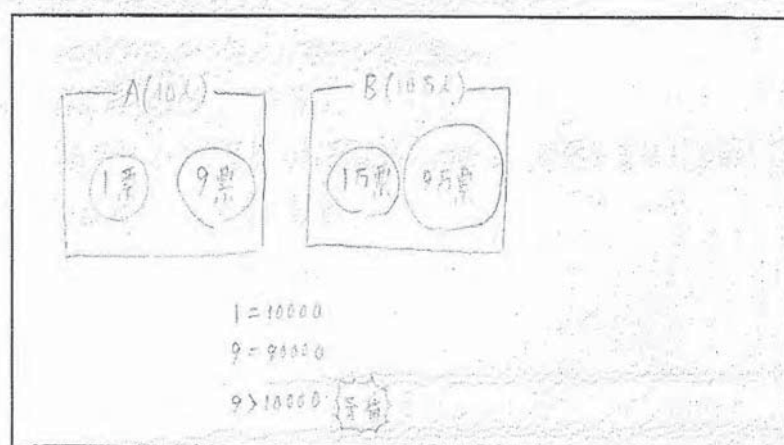


図1 一票の格差についての回答

この図はとても簡潔に表されており、公民的資質の「現代の社会について探究しようとする意欲や態度」の面で向上につながったと感じた。このことから、ニュース発表を活用した授業を行うことで公民的資質が向上するのではないかという仮説を設定した。

### 3 授業実践

後期実習で行った授業実践では、上記で述べた仮説の検証を行った。授業は2年1組, 2組, 3組で行い, 4回ずつの計12回の授業を行った。その中の1, 2, 3回目の計9回の授業で研究を行った。これらの各学級の生徒数は, 45人であり, 合計135人である。教科書は, 第一学習社の「高等学校 改訂版 現代社会」を用いた。

(1)実践1回目 2020年11月4日水曜日

#### ①指導略案

学習指導案					
大 単 元 名 現代の経済社会と私たちの生活					
本時の小単元名 経済主体と企業の活動 (1/3 時間目)					
過程	学 習 内 容	生 徒 の 活 動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等	時間
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ、出欠</li> <li>ニュース発表</li> <li>経済（お金の流れ）はどのようにして回っているのか聞いてみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつをする。</li> <li>ニュース発表をする。（発表の中のキーワードを3つ書き出し、3人発表する。）</li> <li>問いに対して解答する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ、出欠の確認。</li> <li>ニュース発表にコメント。（3人分と教員のキーワードを照合し、出てきた単語を確認する。）</li> <li>問いを出す。</li> </ul>		10分
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>三つの経済主体</li> <li>企業の役割と社会的責任</li> <li>株式会社のしくみと活動</li> <li>多国籍企業の活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業、家計、政府の三つの経済循環についてノートに書き、その仕組みについて理解する。</li> <li>板書を書き写し、いざ入社するかもしれない企業について考える。</li> <li>図をノートに書き写し、株式というものについて理解する。</li> <li>用語を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済循環の図を板書し、説明する。</li> <li>企業が利潤を得るほかに果たすべき事柄について説明し、その責任についても説明する。</li> <li>株式会社の仕組みを図で書き説明する。用語が多いため、色分けをきちんとする。</li> <li>教科書太字を板書する。</li> </ul>	<p>【知識・理解】</p> <p>自分自身が将来的に関わることになるだろう企業や経済について理解し、用語を覚えようとしているか。</p> <p>① 板書を書き写している。</p> <p>② ワークシートに自分の意見や疑問を書いている。</p> <p>A：①、②のうち、どちらも観察することができる。</p> <p>B：①、②のうち、どちらか観察することができる。</p> <p>C：①、②のうち、どちらも観察できない。</p> <p>（Cは指導の手立てにより出さないようにする。）</p>	35分
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の授業の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の授業での疑問点や感想、学びをワークシートに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時を振り返らせながら、評価を意識する。</li> </ul>		5分

② ニュース発表

表 1 発表テーマ、概要

学級	1 組	2 組	3 組
発表テーマ	米大統領選 ー両者アピールに熱ー	トルコ沖地震 ー建物倒壊現場救出相次ぐー	トルコ沖地震 ー建物倒壊現場救出相次ぐー
概要	現大統領トランプ氏と前副大統領バイデン氏の大統領選について。	トルコ、ギリシャ沖のエーゲ海で発生した、M7.0の地震について。	トルコ、ギリシャ沖のエーゲ海で発生した、M7.0の地震について。

生徒の考え (抜粋)	日本に悪影響が出ないで欲しい。	日本も地震が多い国なので、今から注意しておきたい。	人が水無しで生存できる期間は3日だとテレビでやっていたことを思い出した。
---------------	-----------------	---------------------------	--------------------------------------

表2 キーワード(授業後に全員分回収し、統計したもの)

キーワード (票数)	<b>コロナ対策</b> (25)	<b>トルコ沖地震</b> (33)	<b>過去の被害の放置</b> (22)
	大統領選 (18)	コロナ対策 (17)	<b>トルコ沖地震</b> (20)
	日米関係 (15)	津波 (11)	<b>72時間</b> (18)
	アメリカンファースト (9)	<b>72時間</b> (10)	M7.0 (11)
	黒人差別 (6)	救助活動 (5)	建物被害 (10)
	ブラック・ライヴズ・マター (6)	協力 (5)	コロナ感染 (7)
	<b>経済回復</b> (5)	ギリシャ (5)	負傷者 990 人 (6)
	期日前選挙 (4)	USGS (米地質調査所) (4)	死者 93 人 (5)
	国際協調 (4)	死者 93 人 (4)	津波 (5)
	トランプ (4)	住宅倒壊 (3)	修復 (4)
	よりよい復興 (4)	耐震対策 (3)	救助活動 (3)
	9400 万人 (3)	負傷者 990 人 (3)	生存率 (3)
	感染者数最多 (3)	M7.0 (2)	その他 (6)
	政策 (3)	国際関係 (2)	
	バイデン (3)	これからへの支援 (2)	
	ビルド・バック・ベター (2)	地盤 (2)	
	その他 (5)	その他 (10)	

(キーワード発表で出されたキーワードは字体を変えています。)

## (iii) 実践者の工夫

## ア：ニュース発表・キーワードコメント

キーワードに対してのコメントは、決して否定しないように、また、そのキーワードから話を膨らませられるよう、最近の情勢や政治についてはよくニュースをチェックするようにした。そして、そのキーワードから授業につながるような言い方や話し方を心掛けた。授業内容と関わりが深いニュースやキーワードの場合、その単語をうまく言えるように授業展開を目指した。発言されたキーワードに対しては、1組は経済回復からうまく経済につながられたのだが、2、3組は出来なかった。今考えれば、地震の後の経済支援などの面から話を展開できたが、咄嗟の判断のため出てこなかった。

## イ：授業での工夫

授業では、なるべく出たニュースに触れながらキーワードを経由していくように心掛けた。だが、2組、3組の地震についてのニュースは触れることがなかなかできなかった。経済と地震の関連性を見出せなかったからだ。だが、1組の授業ではキーワード発表で経済回復という単語が出たため、株式会社の部分でつなげて話をした。経済回復によるお金の循環とそれによる売買の活発化、そしてデフレーションからの脱却という内容で話した。

(iv) 生徒の感想

授業についてのわかりやすさ, わかりにくさなど, 授業についての感想は多かった。例えば, 「株に怖いイメージを持っていたが, 授業で概要を知ることができて良かった。今度もっと調べてみようと思う。」という感想があった。だが, この研究の目的である, 公民的資質の向上が見られる感想は少なかった。ニュース発表と授業のつながりがまだできていないからである。それは, 授業内容を教えることに必死になりすぎている, ニュース発表と授業の関連性を咄嗟に探せていないことが挙げられる。

(2) 実践 2 回目 2020 年 11 月 5 日 木曜日

① 指導略案

学習指導案					
大 単 元 名 現代の経済社会と私たちの生活					
本時の小単元名 市場経済のしくみ (2/3 時間目)					
過程	学 習 内 容	生 徒 の 活 動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等	時間
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ、出欠</li> <li>ニュース発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつをする。</li> <li>ニュース発表をする。 (発表の中のキーワードを3つ書き出し、3人発表する。)</li> <li>問いに対して解答する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ、出欠の確認。</li> <li>ニュース発表にコメント。(3人分と教員のキーワードを照合し、出てきた単語を確認する。)</li> <li>問いを出す。</li> </ul>	<p>【資料活用の技能】 多く出てくるグラフを読み取り、それらを正しく理解し、需要と供給について学べる。</p> <p>① ノートにグラフを書いているか。</p> <p>② 周りの生徒と協力し、学ぼうとしているか。</p> <p>A：①、②のうち、どちらも観察することができる。</p> <p>B：①、②のうち、どちらか観察することができる。</p> <p>C：①、②のうち、どちらも観察できない。 (Cは指導の手立てにより出さないようにする。)</p>	10分
	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場のしくみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場の需要と供給の均衡について理解する。また、アダム＝スミスについての復習をする。</li> <li>曲線やその動きによって、価格帯が移動していくことを理解する。</li> <li>自分自身でグラフを作り、曲線を移動させ、価格がどのように変化していくのか実際に見る。 (周りを確認)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>需要と供給についての説明をし、グラフについての説明もする。</li> <li>多数のグラフを比べさせ、需要と供給の一致について説明する。</li> <li>生徒自身にグラフを書かせる。(机間指導)</li> </ul>		35分
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>価格はどのように決まるのか</li> </ul>				
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の授業の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の授業での疑問点や感想, 学びをワークシートに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の授業とニュース発表とのかかわりを意識する。</li> </ul>		5分

## ②ニュース発表

表3 発表テーマ、概要

学級	1組	2組	3組
発表テーマ	社会保障見直しーベーシックインカム検討かー	ウィーンで襲撃4人死亡ーテロの可能性、22人負傷ー	発表生徒欠席により中止
概要	全国民に最低限度の生活費用として、ベーシックインカム導入を検討している。	オーストリア首都、ウィーンで銃などを用いた襲撃事件が相次ぎ、死傷者が出た。	
生徒の考え(抜粋)	今は不景気だから、もっとお金を配っていいと思う。	日本に生まれてよかったとつくづく思う。	

表4 キーワード(授業後に全員分回収し、統計したもの)

キーワード (票数)	<b>ベーシックインカム</b> (39)	テロ事件 (34)
	<b>年金・生活保護の縮小</b> (16)	<b>宗教問題</b> (22)
	月7万円 (11)	<b>IS</b> (18)
	労働意欲の低下 (7)	銃社会 (13)
	医療負担の増加 (5)	過激派 (5)
	社会保障 (5)	コロナ対策 (5)
	最低所得補償 (4)	容疑者射殺[死亡] (5)
	コロナウイルス (4)	ライフル (4)
	菅総理 (3)	襲撃事件 (3)
	給付 (3)	オーストリア (3)
	パンデミック (3)	ウィーン (2)
	高齢者 (3)	その他 (3)
	セーフティーネット (3)	
	デジタル化 (2)	
	経済への悪影響 (2)	
	4~5年以内に導入 (2)	
	その他 (8)	

(キーワード発表で出されたキーワードは字体を変えています。)

## (iii) 実践者の工夫

ア：ニュース発表・キーワードコメント

ニュース発表を聞く生徒は、そのニュースを初めて聞く生徒が多い。そのため、耳に残りやすい言葉や自分が知っている言葉、テレビやインターネットで目にする言葉などが多く挙げられている。私のキーワードに対するコメントは、1組では年々減りゆく年金の話、2組ではどの宗教団体にも触れぬように抽象的な話をした。

イ：授業での工夫

この授業では需要曲線と供給曲線の成り立ちや考え方などを、生徒の身の回りのものから説明をすることを心掛けた。また、1組のニュースは経済の部分とつなげやすく、ニュース発表と絡めながら授業ができた。具体的には、ベーシックインカムによる国民の消費の増加が見込まれ、市場価格の変化が起こるのではないかという話をした。2組では、銃の話から武器は非常にお金の動くものだが、危険が付いて回ることを話した。他ににとっては非常に経済的な損失を生み出す戦争や抗争だとしても、売る側はお金を儲ける良い機会であ

る。過去の日本の特需景気を引き合いに出しながら展開した。

(iv) 生徒の感想

生徒の意見の中に「ニュース発表のあとに先生が言うことで昔あったことを思いだしたり、新しいことを知れるのでうれしい。」といった感想があった。これはニュース発表から授業につながられていることが起因していると感じた。また、この単元では横文字のカタカナ単語が多かったため、英語とも関連させて授業した。その影響もあり、「英単語の勉強ができて一石二鳥。」という感想も見られた。このことから、ニュース発表・キーワードについてのコメントは、他教科との関わりでも展開できることを実感できた。

(2)実践 3 回目 2020 年 11 月 10 日火曜日

①指導略案

学習指導案					
大 単 元 名 現代の経済社会と私たちの生活					
本時の小単元名 市場経済のしくみ (3/3 時間目)					
過程	学 習 内 容	生 徒 の 活 動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等	時間
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ、出欠</li> <li>ニュース発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつをする。</li> <li>ニュース発表をする。 (発表の中のキーワードを3つ書き出し、3人発表する。)</li> <li>問いに対して解答する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ、出欠の確認。</li> <li>ニュース発表にコメント。(3人分と教員のキーワードを照合し、出てきた単語を確認する。)</li> <li>問いを出す。</li> </ul>	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 市場について考え、質問に回答し、学びをワークシートに書くことができる。</p> <p>② 周りの生徒とペアワークで意見交換をし、自らの意見を表現することができる。</p> <p>A：①、②のうち、どちらも観察することができる。</p> <p>B：①、②のうち、どちらか観察することができる。</p> <p>C：①、②のうち、どちらも観察できない。 (Cは指導の手立てにより出さないようにする。)</p>	10分
	展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>競争と独占・寡占</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書をする。</li> <li>説明を聞き、板書する。</li> <li>近くの人と話し合い質問に対して相談し、質問に答える。</li> <li>近くの人と話し合い質問に対して相談し、質問に答える。</li> <li>独占・寡占の禁止について学び、公正取引委員会、独占の形成をノートに書く。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>語句の説明をする。</li> <li>独占・寡占になる流れを説明する。</li> <li>価格先導者によって価格が決まった後、その他の企業がどのような値段設定にするのか質問する。</li> <li>非価格競争の際、企業がどのような取り組みをしているか質問する。</li> <li>公正取引委員会の役目と、独占の形成について説明する。</li> </ul>

ま と め	・本時の授業の振り返り	・本時の授業での疑問点や感想, 学びをワークシートに書く。	・本時の授業とニュース発表とのかかわりを意識する。	5分
-------------	-------------	-------------------------------	---------------------------	----

## ②ニュース発表

表5 発表テーマ、概要

学級	1組	2組	3組
発表テーマ	居酒屋の業務転換 200店超	時短「またか」嘆く店ー札幌ススキノ「客が戻ったのに」ー	バイデン氏 「勝利確信」
概要	コロナウイルス感染拡大により, 居酒屋が業務転換を決めたところが出てきた。	北海道ススキノ地区で時短営業申請に飲食店から不満の声が上がる。	米大統領選において, バイデン氏がリードをさらに拡大した。
生徒の考え (抜粋)	居酒屋だけじゃなく, 多くの店が被害にあっているの, コロナが速く収束して欲しい。	時短営業などの策を出す前に, 今一度考えるべきだと感じた。	アメリカは日本の友好国なので, 結果がとも気になる。

表6 キーワード (授業後に全員分回収し, 統計したもの)

キー ワ ー ド (票 数)	コロナウイルス (19)	<b>時短営業</b> (19)	<b>バイデン氏</b> (27)
	<b>業務転換</b> (19)	<b>コロナウイルス</b> (19)	不正 (21)
	Go to Eat (18)	休業要請 (16)	<b>トランプ氏</b> (12)
	<b>居酒屋</b> (17)	不要不急の外出 (8)	<b>日本に影響</b> (8)
	<b>居酒屋売り上げ 47%減</b> (9)	北海道 (6)	米大統領選 (8)
	飲食店 (6)	経済 (6)	ツイッター (7)
	忘年会シーズン (5)	制限 (6)	長期戦 (6)
	飲食店によって難点が違う (5)	ススキノ (6)	法廷闘争 (6)
	閉店 (4)	感染拡大 (5)	諦めない (4)
	売り上げ (3)	経営 (5)	勝利確実 (3)
	各店の対策 (3)	生活習慣 (4)	自国優先 (2)
	宅配サービス (3)	飲食店 (3)	円滑な政治 (2)
	水準 (3)	宴会シーズン (3)	政権移行 (2)
	日本フードサービス協会 (2)	不満の声 (3)	公正 (2)
	居酒屋業界の命運 (2)	範囲 (2)	米大統領 (2)
	消費動向 (2)	他地区での飲食 (2)	その他 (7)
	その他 (4)	完全収束 (2)	
		3日連続 100人越え (2)	
		その他 (7)	

(キーワード発表で出されたキーワードは字体を変えています。)

## (iii) 実践者の工夫



ア：ニュース発表・キーワードコメント

コロナウイルスの影響によるニュースとアメリカ大統領選の話だったため、事前知識がある生徒がおり、多くのキーワードにばらけた印象がある。キーワードに対するコメントとしては、コロナウイルスとアメリカ大統領選が日本に与える影響について話した。特に経済面、政治面が大きかったため、授業の経済に合わせて展開した。

イ：授業での工夫

ニュース発表をする生徒に、経済に関係する記事を発表してくださいと、事前に言っておいたこともあり、ニュース発表は経済関係であった。そのおかげで、ニュース発表と授業が結び付きやすくなり、授業の中にキーワードやニュースからの発展をうまく盛り込むことができた。具体的には、飲食店の競争やコロナウイルス流行による商品の増減、大統領選による日本の企業への影響を交えて説明した。

(iv) 生徒の感想

1, 2 回目比べて、より授業とニュース発表の関係性が高かったこともあり、経済関係に関する意見や質問が多かった。例としては「自分勝手に自分たちの欲（利益）だけでは動けない。公平な取引を。」という意見や、「さまざまな競争のあり方がある。」という意見が見られた。

#### 4 授業実践の考察

##### (1) 3 回の実践の比較

1 回目の授業から 3 回目の授業にかけて、着目する観点が広がったと感じる。その理由は、ニュース発表の見出しだけでなく、発表内容を把握したキーワード発表が多くなったからだ。また、キーワード発表の際に、1 回目は簡素な発言だったが、3 回目の授業時にはより具体的な部分や、自分の中でまとめたものを発表するようになった。1 回目、2 回目、3 回目のキーワードを比較してみると、1 回目、2 回目に比べ 3 回目は、同じキーワードに集中することなく、分散していた。それは、見出しから抜き取ったような答えではなく、ニュース発表を隅々まで聞いたことによる結果が出ているからだと考えた。これは、一時的なものからさらに展開させ、具体的な部分や、自分の中でまとめたものを書いているからである。また、発表しない生徒にキーワードを書かせることによって、思考停止の時間を無くし、自ら考え、書きだすことで公民的資質の向上にもつながっていると感じた。また、キーワードを発表している生徒の発表を周りの生徒が相槌を打っている場面も多く、1 回目から 3 回目にかけて自学の精神や公民的資質が向上していると感じた。これらは、公民的資質の「現代の社会について探究しようとする意欲や態度」に該当している。

そして、最近の情勢の影響もあり、コロナウイルスというキーワードが出てこなかったのは、3 組の 3 回目のニュースだけであった。それだけコロナウイルスは生徒の注目の的であるのだ。昨今の大きな被害を鑑みれば、当たり前なことなのかもしれない。経済分野の授業を行う中で、コロナウイルスによる経済への打撃、また、それによる需要と供給の話もした。そのことも相まってか、コロナウイルスのニュース発表は多かった。生徒の感想としては、ニュース発表が経済面にちなんでいたこともあり、1 回目や 2 回目に比べて、3 回目の方が授業やニュース発表、キーワードを絡めた感想が多かった。

##### (2) 比較から言えること

生徒自身のニュース発表を聞いたときに考える視野が広がったと言える。なぜなら、上記に指摘した通り、着目する観点が広がっているからだ。視野が広がるということは、公民的資質の中の、「現代の社会について探究しようとする意欲や態度」に当てはまる。これはニュース発表と授業をつなげることは、公民的資質の向上に役立っていると判断できる。

また、各授業で回収した記録用紙から参集したキーワードのデータの比較で感じたことは、生徒が元から知っている単語や言葉はキーワードとして選択されやすいということだ。それは、自分の知っている単語や言葉であれば、

図2 生徒が授業で学んだこと

他からその内容について尋ねられてもある程度答えることができるからだ。だが、その中でも自分自身の言葉や、ニュース発表に出てきたことをしっかり聞き取り、それについて書いている生徒（例：図2）もいた。全員ではなかったが、公民的資質の向上が見られた。

## 5 成果と課題

課題として挙げられるのは、公民的資質という目に見えないものをどのようにして見取り、向上させていくかということだ。この課題については、ニュース発表を生かした授業展開を行ってきた。生徒が発表したニュースに対し、他の生徒がキーワードを挙げる。そして、教員がそのニュース内容とキーワードを組み込んだ授業を展開することで、現在のニュースと現代社会という授業を結び付けることができ、公民的資質の中にもある自主的な精神や在り方生き方についての自覚につながる。また、生徒同士が自らの考えたキーワードを発表することで、個人の尊厳を重んじ各人の個性を尊重しつつ自己の人格の完成に向かおうとする実践的意欲にもつながっていく。

このように考え、今まで授業実践に取り組んだ。その成果として、生徒がニュース発表のことに興味をもってくれることや、授業の内容に、より深く向き合えていることなどが生徒から回収した感想に書かれてあった。1回目から3回目までの変化としては、単語や1行だけの感想ではなく、文章で細かく書く生徒が増えた。また、内容が分かりやすい、例え方が面白くて頭に残るとも書かれてあった。これは私がニュース発表と授業を一体化させることを目指して授業を行った成果だと考える。つまり、ニュース発表を活用した授業は公民的資質が向上につながれるということである。これには、今回実践したキーワード発表も大きな要素として重要であると考えられる。

課題としては、もう一度同じニュース発表をしてもらうことで、公民的資質がどのように変化したかを見ることができなかつたこと。また、今回の調査項目に当てはまらなかつた公民的資質、他教科との連携がある。今回の研究成果をもとに、今後の研究で突き詰めていきたい。

最後に、本研究を行うにあたって、何度も足を運ばせていただいたA高校と担当の先生方、そして私の授業を真剣に受けてくれた生徒の皆さんに感謝を申し上げます。

## 引用・参考文献

- i) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』（文部科学省、2018年、29頁）
- ii) 佐長健司・真子靖弘「公民的資質を育成する社会科パフォーマンス評価の開発」（『佐賀大学文化教育学部研究論文集』佐賀大学文化教育学部、2008年、156頁）